





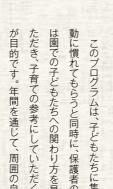
## まつの子ぐみ 保護者 鈴木 理絵子 大切さを学ぶ 少し離れて見守る

という園の方針を信頼していたので、迷わ 参加を決めました。 境の中、体験を通じて生きる力を育む 長女も常磐大学幼稚園の修了生で 経験豊富な先生方と、自然に囲まれた

緒に遊ぶことで、していいことと悪いこと 守ることの大切さを学びました。先生や 先生のお話を聞いたことで少し離れて見 悩むこともありますが、短期大学の木村 親としてどこまで子どもに関わるべきか を理解できるようになりました。私自身 行事に関心を持ったり、同い年の友達と一 とで、子どもが自立への第一歩を踏み出せ 友達など、家族以外から認められるこ 季節の行事をお祝いすることで、伝統







いきます。そのためか、まつの子ぐみを経験 ることを覚えるなどの社会性を身に付けて とで、子どもたちは食事のマナーや、我慢す 用していただきたいと思っています。 直接相談することもできますので、ぜひ活 研究されている先生方に、子育ての悩みを 園の教師や短大・大学で幼児教育を専門! え合うことを目指しています。また、幼稚 ら、保護者の方と一緒に子どもの育ちを支 や絵の具遊び、あるいはごつこ遊びをしなが 豊かさや季節感を味わいながら、砂場遊び は園での子どもたちへの関わり方を見てい 動に慣れてもらうと同時に、保護者の方に ただき、子育ての参考にしていただくこと した子どもたちは、就園しても周りの子ど 未就園の時期から集団生活を体験するこ



識を持っていてくださるようで、子どもた

保護者の方も一緒に育てようという意

もたちに良い影響を与えているようです。

れ、自然に親同士の情報交換も活発にな ちに積極的に声をかける場面も多く見ら

自我が芽生え始めるこの時期は、親の

えてきます。ときにはお友達と気に入っ 言うことを素直に聞けなくなることが増

> 園で楽しい時間を過ごしてもらえること 見守り、安心して子育てができるよう、当 保護者の方には、「みなさんその育ちを通 るようになればいい、と長い目で子どもを 過していくので大丈夫ですよ」とお伝え 焦ったり悩んだりしてしまいがちですが になります。 とが、将来しつかりとした人間に育つ基礎 ても自分の子どもと他の子どもを比べて、 しています。今できなくても先々にでき 発達面では個人差があり、親はどうし

### 子どもの育ちを支え合う。

#### 親子でのびのびと遊びながら社会性を育む 2歳児のための親子プログラム「まつの子ぐみ」。

常磐大学幼稚園では、2000年度から地域の子育て支援活動の一環として、

幼稚園入園前の2歳児を対象とした親子プログラム「まつの子ぐみ」を実施しています。

少しずつ集団生活に慣れ、幼稚園入園前に社会性の基礎を育むことを目指します。

まつの子ぐみでは、幼稚園を囲む豊かな自然を生かし、季節に合わせた行事や企画など、

いろいろな遊びを通じて、子ども同士や親子間だけでなく、親同士の交流が広がることも期待されています。

本学ゆかりの「常磐松」にかけ、子どもの成長をゆっくり「待つ」想いをつなぐ「まつの子ぐみ」。併設する大学・短大で幼児教育を

担当する教員もサポートしているため、子どもの発達や食事、生活面での悩みなどについて、

いつでも相談できる環境が整っていることも特徴です。







# 親と共に子どもの成長を見守る 自我の芽生える難しい 時期

常磐大学幼稚園 教頭 小貫東里 このプログラムは、子どもたちに集団行

瞬一瞬を大切に、子どもとよく向き合うこ ない貴重な時期でもあります。この時の一 すが、密に親子で関わっていける、ま

# 親同士の触れ合いで生まれる安心感 悩んでいるのは自分だけじゃない

常磐短期大学 幼児教育保育学科 専任講師 木村 由希

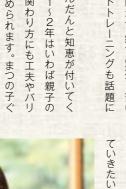
待しています。 どもと向き合えるようになることを 付いたりし、安心して、自信を持つて子 んでいるのは自分だけではないことに気 や子育てについて客観的に考えたり、悩 とりにくいもの。子どもと離れて、ゆっ 普段は親同士ゆつくり話をする時間が います。小さい子どもを抱えていると、 子育てについて話し合う機会を設けて くり・じつくり話をすることで、子ども まつの子ぐみでは、年2回、親だけで

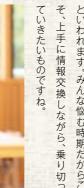
ます。例えば、ご飯をたくさん食べられ

めて育てることが有効な時期でもあり

レビ視聴、読み聞かせ、家での遊び、習い いていただきました。起床・就寝時間、テ 家庭でのやり方で聞いてみたいことを書 今回は事前にアンケー トをとり、他の

「そう来たか?」と受け止められるようげかけを試してみる。子どもの反応を 的に)少し離れた視点からいろいろな投 て、子どもと同じ土俵には立たず、(心理 り方の幅を増やすとよいでしょう。そし ットや育児書を参考にしたりして、関わ 関わりを見たり、話を聞いたり、またネ みのような機会に先生や他の親たちの 知恵比べ。親の関わり方にも工夫やバリ 2歳児はだんだんと知恵が付いてく ーションが求められます。まつの子ぐ ~2年はいわば親子の





といわれます。みんな悩む時期だからこ 、この時期の子育ては親にとって大変

部食べられたね。えつ、おかわりもす ない子には初めから量を少なくして「全 て褒める場面を作って後押ししてあげ 「魔の2歳児」という言葉もあるくら

になるかもしれません。 う、誇らしさ、の芽生えるこの年齢は、褒 また、「ぼく(わたし)ってすごい」とい

になると、子どもの成長を楽しめるよう